

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																															
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工科技術専門課程		土木・造園科		平成25(2013)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	専門的な知識と技術(専門力)を身につけるとともに、コミュニケーション能力や問題発見・解決能力等(人間力)を高めることを図り、暮らしをまもり、つくり、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。「土木」分野ではcivil engineering(市民の工学)という名の通り、自然と人間の調和を図りつつ、私たちの生活する社会の基盤を造り上げていく方法を学びます。「造園」分野では、自然と人工の調和共存を図りながら、生態系や場所性を考慮しつつ緑の効果を発揮させて、人間が求める機能と快適性を希求する技術と芸術を学びます。実技・実習を通して、最新技術についても触れる機会を設けて、実践的な教育を行います。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	2級土木施工管理技士(学科試験)、2級造園施工管理技士(学科試験)、2級造園技能士、3級造園技能士、玉掛技能講習、小型移動式クレーン運転技能講習、ビジネス能力検定3級 中退率:6%																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,740 単位時間	510 単位時間	285 単位時間	1,650 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
80人	78人	3人		4%																																	
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>50</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>45</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>43</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>26</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>96</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>60</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>86</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>1</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>・自主営業: 1人 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) サカタのタネ グリーンサービス、大林道路、染谷サボテン園、金澤工業、坂田建設、昭立造園、馬淵建設、住友林業緑化、巴山建設</p>									■卒業者数(C)	50	人	■就職希望者数(D)	45	人	■就職者数(E)	43	人	■地元就職者数(F)	26	人	■就職率(E/D)	96	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	60	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	86	%	■進学者数	1	人	■その他			
■卒業者数(C)	50	人																																			
■就職希望者数(D)	45	人																																			
■就職者数(E)	43	人																																			
■地元就職者数(F)	26	人																																			
■就職率(E/D)	96	%																																			
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	60	%																																			
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	86	%																																			
■進学者数	1	人																																			
■その他																																					
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立 専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/technology/landscape/																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	180 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																				
うち必修授業時数	180 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 2人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																				
計	2人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要な人材を育成するために、企業へのヒアリングを随時行い、土木・造園分野の実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスを基に科目担当教員と企業講師の間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。現在の建設業界で必要なスキルを身につけられるよう、常に授業内容や方法を検証することにより、実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 博之	明星大学理工学部 教授	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	②
友保 大地	住友林業緑化株式会社 経営管理部 部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
巴山 一済	巴山建設株式会社 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
小林 猛	日本工学院八王子専門学校 科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回

(開催日時(実績))

第1回 2022年09月28日 16:00～18:00 オンライン

第2回 2023年03月28日 16:00～18:00 オンライン

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生の興味を持つ授業やカリキュラムが必要と委員より話があった。そのため、実際の土木の現場見学会や造園の実務が経験できるように授業内容を更新し実施した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等からの派遣講師と毎回の実習内容について打ち合わせを行い、目標を設定する。実習・演習を実施後、目標に対してどこまで達成できたかを確認し、評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
CAD-CIM1	図面を描くCADの操作について学びます。	八千代エンジニアリング株式会社
土木・造園演習2	土木・造園の現場作業を実習を通じて体験し、将来の施工管理に役立てます。	有限会社春秋設計工房

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	高精度3D計測～モデリングの重要性と事例紹介	連携企業等:	株式会社U'sFactory
期間:	2022年9月16日		テクノロジーカレッジ 対象: 建築設計科/建築学科、土木・造園科 教
内容	5G、メタバース、バーチャルリアリティ、オーグメンテッドリアリティ、3Dディスプレイなどの技術の急速な発展に伴い、高精細なカラー3Dモデリングの需要が徐々に高まっています。様々なカラー3Dスキャンとモデリングソリューションの中で、どのソリューションが教育にとってより効果的なのかのソリューションが教育にとってより適しているのか、理解することが今後のデジタル人材を育成するために必要だと考えました。高精細3Dカラーモデルに対する様々な要求のタイプを知る必要があることです。さまざまなシーンで、ユーザーは自分のニーズに応じて最適なソリューションを選択する必要があります。		
研修名:	AIと建築設計	連携企業等:	合同会社高木秀太事務所
期間:	2022年12月20日		テクノロジーカレッジ 対象: 建築設計科/建築学科、土木造園科 教員
内容	AI技術の発展はさまざまな業界でAIを活用する動きが加速しています。普段の生活においてもAIと触れ合う機会は増加しており、ますます身近な存在になりつつあるといえるでしょう。そんな、身近な存在になりつつあるAIですが、最近では建設業界においても導入されるケースが多くなってきています。建設業にAIを導入した場合、どのような形で業務効率化が進んでいくのでしょうか。また、AIの導入によって人間の仕事がなくなる可能性はあるのでしょうか。これらの点について、設計業務でAIを使用している専門家からレクチャーを受け、次世代を創造します。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ハラスメント防止研修	連携企業等:	社会保険労務士 曾田 究氏
期間:	2022年8月4日	対象:	日本工学院八王子専門学校教職員
内容	ハラスメントを知り、防止する(パワハラ、セクハラ、妊娠・出産に関するハラスメント)		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	BIM技術(中級～上級)スキル講習	連携企業等:	Autodesk
期間:	2023年夏予定	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、 土木造園科 教員
内容	令和5年度より国土交通省のBIM/CIM原則適用が始まり、施工段階でも今後3次元の設計成果物が増えてくることで、BIM/CIM原則適用への対応が迫られるようになります。特に施工段階に着目し、令和5年度のBIM/CIM原則適用の動向や内容について学習した上で、BIMの中級～上級のスキル向上を図る。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	哲学対話～課題発見・問題解決の方法～	連携企業等:	滴塾 第二学舎
期間:	2023年夏予定	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、 土木造園科 教員
内容	哲学対話とは対話の参加者が輪になって問いを出し合い、一緒に考えを深めていくという対話のあり方です。近年においては、日本でも哲学対話の実践が普及するようになりました。日本における実践は、アメリカで始まった「子どものための哲学」やフランス発の「哲学カフェ」などが原点とされています。学生の専門分野のスキル向上だけでなく、人間力やコミュニケーション力といった部分の強化、また自らで考え抜く力が必要となるため教員がファシリテーションを学ぶ研修を行う。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

・コロナ禍における学校運営の困難な中、新たな取り組み、施設面、教学面等々を伺う中で驚愕するとともに敬意を表したいと思いません。殊に学生を第一義としての設備の拡充とこの時期に特に求められる学生のメンタルケアへの取り組みを評価したいと思います。また、教育マネジメント部の様々な取り組みが更なるデータ資料となり学生支援、並びに教職員の方々の意欲の向上そして学園の更なる発展へのステップとなることを期待しています。

・課題解決に対し、年度ごとに十分な対策をたて、設備投資が実施出来ているということは、財政基盤が確りしているからでこそと思います。

・貴校の学生に対する思いには都度感心するばかりです。学生の為に取組まれている新しい部門(教育マネジメント部)を立ち上げた事により、現状に満足することなく、さらなる高みを目指されている事かと存じます。いろいろな分析にて貴校の状況(学生の考えや教職員の満足度等)を可視化し、評価していくのだと思います。1年、2年にとどまらず、継続して実施して頂ければと思います。

・卒業後の進路になる企業として、学校の取り組みやどういった人材を育てようとしているかがわかるのは非常にありがたいです。在校生だけでなく、OBの方々の繋がりも持てるようになると、更に連携も取れるかなと思いましたので、今後に期待しております。

・イケアとコラボされた図書館のリニューアルに驚きましたが、まだHPには掲載されていないようなのもったいないなと思いました。

・一部に改善がなされると望ましい項目もありましたが、時間を要することと思いますので、継続した取り組みがなされるとよろしいかと思えます。全体的には学校運営がなされていると感じました。

・貴校が真摯に学生・教育に向き合い、常に改善を図っていく姿勢が感じられました。図書館の改修をはじめとする設備の充実化も学生の学習意欲の向上に寄与すると思えます。進学を志す学生が多いことが学びを楽しめる環境であることを証明していると思えます。また、教職員の自己評価で「仕事にやりがいを感じる」との回答が多いことは、教育に対する熱意を感じますし、良い社会人を生み出す原動力になると思えます。引き続き、地域とのつながりを重視するとともに、卒業生が在籍する企業とのつながりも強化していくことで、就職率の向上と貴校のブランド力の向上を図っていただきたいと思います。

・専門性を追求するカレッジ制を導入し、時代の求める真のスペシャリストを育成するために、目標や計画を実施している事が確認できました。また、社会人として必要な教養を身に着け、勤労と責任を重んずる、心身ともに健全なる技術者の育成を人材像として掲げ、取り組んでおられる事も確認できました。コロナ禍の中、継続して安定した学生数が確保されている事も、強みであると感じました。今後とも、御校から素晴らしい人材が地元八王子に貢献していただけることを、心より祈念いたします。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. 学生満足度の向上

・学生を知る活動の継続、日本工学院の独自性を発揮して生活面・感情面を充実させる。

2. 教育の質保証と向上

・教職員の資質向上、満足度向上

3. 就職支援

就職満足度の向上、社会に貢献できる学生の育成サポート強化

4. コロナ禍における新しい時代に向けた「高専連携・地域貢献・地域連携」を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和4年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程土木・造園科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル	社会人に必要な一般常識やマナーを学びます。また、ビジネス能力検定の対策も行います。	1・前	30	2	○			○	○			
2	○			キャリアデザイン1	就職するための心構え、自分にあった就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
3	○			土木概論	土木とは何か、土木の歴史、国土利用計画・治水・都市計画をはじめとする土木計画について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
4	○			構造力学1	土木で使用する数学の基礎と、構造物の基本要素であるはりの力学について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
5	○			土木材料	土木工事で使用する材料として、コンクリート、骨材、鋼材、歴青材料等の特性について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
6	○			造園概論	造園とは何か、造園の歴史、造園にかかわる基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
7	○			植物園芸学	植物の生態、植生分布、園芸の歴史や技術、緑地管理の基礎について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
8	○			造園材料	造園で使用する材料として、石材、木材、繊維材料、植物の種類と特性について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
9	○			施工管理計画1	安全管理、工程管理、品質管理について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
10	○			施工管理技士資格対策1	土木および造園の2級施工管理技術検定学科試験の対策を行ないます。	1・後	30	2	○			○	○			
11	○			製図基礎	土木・造園図面の写図等を通して、その読み方や機能を学び、製図の基礎を身につけます。	1・前	60	2			○	○	○			
12	○			測量実習	測量の考え方、各種測量器具の基本操作などについて、実習と座学を通じて学びます。	1・前	60	2			○	○	○			

(工科技術専門課程土木・造園科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			土木実習	土木工事に必要な技術について、実習や現場見学等を通じて学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
14	○			造園実習	土壌改良、植物の取扱い、芝生の造成等について、実習を通じて学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
15	○			基礎デザイン	土木や造園の模型制作の基礎を、実習を通じて学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
16	○			CAD-CIM 1	図面を描くCADの操作について学びます。	1・前	60	2			○	○			○	○
17	○			施工実習	測量実習・土木実習・造園実習で学んだ技術をもとに、より高度な内容の実習を行ないます。	1・後	60	2			○	○		○		
18	○			パソコン実習 1	文書作成ソフト、表計算ソフトなどの基本操作を学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
19			○	構造力学2	構造計算に必要な断面の諸係数、応力度と安全の検討や、トラスの力学について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
20			○	造園技術1	国内外の造園様式や技法、植栽管理等について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
21			○	土質工学	土の物理的性質、圧密、地盤の調査について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
22			○	造園計画	庭園・エクステリアのデザイン手法、造園の施工計画などについて学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
23			○	CAD-CIM 2	CIM(Construction Information Modeling/Management)の基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	
24			○	造園設計1	造園設計の基本的な考え方を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
25			○	土木材料実験	コンクリート、鋼材、土質などの実験を通して、土木材料のそれぞれの性質を学びます。	1・前	60	2			○	○		○		

(工科技術専門課程土木・造園科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26			○	3級造園技能士資格対策	3級造園技能士合格のための対策を行います。	1・前	60	2			○	○		○		
27			○	インターンシップ1	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・前	30	1			○	○	○	○		
28			○	インターンシップ2	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・後	30	1			○	○	○	○		
29			○	測量士補資格対策1	測量士補合格のための対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
30			○	技術系公務員対策1	公務員試験に向けて、教養試験および専門試験の対策を行いません。	1・後	30	2	○			○			○	
31			○	建設機械1	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1・前	30	1			○	○		○		
32			○	建設機械2	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1・後	30	1			○	○		○		
33			○	校外研修1	国内外の研修を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・後	30	1			○	○	○	○		
34	○			キャリアデザイン2	就職するための心構え、自分にあった就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
35	○			施工管理計画2	安全管理、工程管理、品質管理、積算、法規等について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
36	○			ランドスケープ概論	ランドスケープデザインの歴史を学び、造園・土木・建築等が交差する領域について理解を深めます。	2・前	30	2	○			○		○		
37	○			施工管理技術士資格対策2	土木および造園の2級施工管理技術検定学科試験の対策を行いません。	2・前	60	4	○			○		○		
38	○			都市防災学	我が国で頻発する自然災害(地震・津波・大雨・土砂災害等)を知り、防災について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程土木・造園科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
39	○			環境学	生態系や環境問題について理解を深め、環境管理・環境アセスメントについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
40	○			土木・造園演習1	土木・造園の現場作業を実習を通じて体験し、将来の施工管理に役立てます。	2・前	120	4			○	○		○		
41	○			土木・造園演習2	土木・造園の現場作業を実習を通じて体験し、将来の施工管理に役立てます。	2・後	120	4			○	○			○	○
42	○			パソコン実習2	文書作成ソフト、表計算ソフトなどの基本操作を学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
43	○			卒業制作	2年間の集大成として構造物や庭園などの計画・設計～模型制作・施工などに取り組み、成果をまとめます。	2・後	240	8			○	○		○		
44			○	水理学	水の性質、静水圧、水の運動、管水路について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
45			○	造園技術2	造園の施工管理、施工方法、関連法規等について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
46			○	CAD-CIM3	CIM(Construction Information Modeling/Management)の活用を学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
47			○	造園設計2	実際の庭園設計実習を通じて、設計の実務について学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
48			○	インターンシップ3	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	2・前	30	1			○	○	○	○		
49			○	インターンシップ4	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	2・後	30	1			○	○	○	○		
50			○	測量士補資格対策2	測量士補合格のための対策を行います。	2・前	15	1	○			○		○		
51			○	技術系公務員対策2	公務員試験に向けて、教養試験および専門試験の対策を行ないます。	2・前	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程土木・造園科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
52			○	2級造園技能士資格対策	2級造園技能士合格のための対策を行います。	2・前	90	3			○	○	○		
53			○	校外研修2	国内外の研修を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	2・後	30	1			○	○	○	○	
合計				53 科目			2445時間 108単位 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 卒業時に必修科目1470時間(66単位)および選択科目270時間(12単位)以上取得し、合計1740時間(78単位)以上取得すること。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 1年次は必修750時間、選択科目180時間以上履修すること。 2年次は必修720時間、選択科目90時間以上履修すること。 選択科目のうち、選択1～6は、それぞれからいずれか1科目を選んで履修すること 以下の科目は授業時間割外で実施する 建設機械1、建設機械2、校外研修1、校外研修2、インターンシップ1、インターンシップ2、インターンシップ3、インターンシップ4		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。